

編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「大都市の環境と地域社会に関する総合的研究」の一環としての研究成果としてまとめられた19編の論文をもとに「社会的ネットワークと都市環境」と題する特集号を組むこととした。内容は大きく三つの部分からなる。

一つは、「都市と社会的ネットワーク」に関する7編の論文からなる。森岡清志他「都市度とパーソナルネットワーク」は、日本の都市社会のパーソナルネットワークの特質を都市間比較により明らかにする目的で実施された調査研究の概要を描くことを試みたものである。浅川達人「都市度と友人ネットワーク」は、都市度概念とその分析モデルの精緻化を図り、都市度の友人ネットワークに対する効果を分析するとともに、大都市における遠距離居住の友人とのネットワークに注目する必要性を示唆したものである。林拓也「職業的地位とネットワーク特性」は、個人の職業的地位に焦点をあて、その従業形態と威信地位の双方から社会的ネットワークを分析し、田中恵「フルタイム雇用者の職場関係」は、都市のフルタイム雇用者がとり結ぶ職場関係をもとにパーソナルネットワークを分析したものである。久保田滋「政党支持、投票行動とパーソナルネットワーク」は、パーソナルネットワークの特性や地域集団への参加が政党支持や投票行動に与える影響を分析した。伊藤泰郎「意識の規定要因としての社会的ネットワーク」は、結婚・出生に関する規範意識を規定する要因の一つとして、パーソナルネットワークを独立変数と位置づけ計量分析し検討したものである。山口恵子「低収入層のパーソナルネットワーク特性」は、パーソナルネットワークを低収入層の社会的交流活動との関連で比較し分析したものである。

二つは、都市の景観、水辺環境、土地利用などに関する4編の論文からなる。市原茂「観察距離による対象の色と明るさの変化」は、都市景観・町並みの配色をとりあげ、これを山間部と比較し、観察距離による対象物の色と明るさの変化を分析し、その評価を試みたものである。小椋和子「都市の水辺環境」は、エコロジカルネットワークの観点から都市の水辺環境をとりあげ、多摩ニュータウン開発下の大栗川を対象にその現況、水質などの変動及び自然再生の可能性とその方法を明らかにした。小森谷祥明他「空間的相互作用モデルによる東京大都市圏における市区間人口移動の分析」は、1980年の東京大都市圏の市区間人口移動について新たなセクター成分をとり入れたモデルにより分析を試みたものである。福島隆司「都市の土地利用の効率性について」は、土地資源の効率的利用とそのための社会経済的環境の在り方を論文レビューの形で検討したものである。

三つは、廃棄物問題に関する8編の論文からなる。まず、小泉明他「東京都におけるごみ発生量の統計分析」は、ごみ量予測のため、都の一般廃棄物を対象に、種別ごみ量の発生構造モデルの作成を試み、木村富美子他「東京都の廃棄物についての予備的考察」は、都の廃棄物の現状、及びその経済活動との関連について分析したものである。

さらに、これらに続く6編の論文は、飯島伸子研究員を代表者として平成8年度に行われた自治体の廃棄物問題への対応に関する社会学的な調査の結果報告で、この共同調査に参加された飯島伸子、藤川賢、堀畑まなみ、寺田良一、鵜飼照喜及び柏谷至の6人の研究者が五つのサブテーマを分担執筆されている。内容は、「廃棄物問題の社会学的研究」「産業廃棄物の広域移動と首都圏-地方関係」「産業廃棄物の事業者責任に対する自治体の意識」「廃棄物と環境問題に関する自治体の問題認識」「長野県の廃棄物問題と自治体行政」「地方自治体における一般廃棄物行政の現状と問題点」である。